進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
3 March
第 197
2023 年 3 月 1 日発行

日常の授業風景

22 年度入試直前ゼミ前に昼食

入試直前ゼミ！

差し入れありがとうございました！

30 期生の高橋聖奈子さんが英語 4 技能テスト GTEC のライティングで 3 位に！

14 期生の江口 恵さん。数年後には釧路の活性化するためにの仕事をしたいと！

6 期生でポータスに勤務する岩渕君、やばいです体重 70 kg超えましたって！

『思い込みにとらわれない生き方』
『大学院卒』でも企業では評価されない…

世界中で進む高学歴化に日本だけが取り残されている理由「高偏差値大学の卒業生は優秀」はもう古い

学歴はその後の人生にどのような影響を与えるのか。昭和女子大学総長の坂東眞理子さんは「日本では、偏差値の高い大学に入った人は優秀だ、という思い込みがあるが、国内外の現状は大きく変わってきている」という――。

「学歴フィルター」は給与には作用しない

大企業は、ほとんどが大卒を採用するので、大学を出ていることが必要となっています。日本の場合、時代によって「大学に行くのがスタンダード」になったり「高校卒がスタンダード」になったりしており、今は偏差値の高い大学を出ることが学歴の良さだという思い込みがあるのです。しかし入試の偏差値が高い大学も入学してしまえば、ほとんどの人が卒業できますし、大学の成績は就職であまり考慮されなくなっています。しかし、他の国はそうではありません。

例えば、アメリカは日本以上に学歴社会です。大学入学は日本より楽ですが、勉強しなければ留年、退学です。卒業するまでしっかり勉強して良い大学を出て、さらに大学院や専門職大学院へ進学して良い成績をとっていれば、高いお給料の仕事に採用される、というシステムなのです。企業は、人材が必要になったら新卒者だけでなく中途転職者も募集し、採用します。

しかし日本は、「大卒」として4月に全部一律に採用し、大卒の新入社員は一律の給料です。就職試験の面接時などでは少なからず、卒業予定大学名でのアンコンシャス・バイアスのフィルターがかかるのに、大学名や大学時の成績の差が給与として反映されることはありません。

大学生は自由を謳歌していればよかったが…

つまり日本では「大学で何を学んできたか、より入試の偏差値が高い大学に入学する人が優秀」というアンコンシャス・バイアスがあるのです。アメリカでは、修士号、博士号をもっているのが高学歴者で、有名大学でも学部卒は高学歴とみなされません。

日本のほとんどの企業では、学生が大学時代に学んできたことと、社会人になってからの仕事に関係がないということも問題です。　仕事に必要な知識は入社してから職場で教えます」といった風潮がありました。

「大卒」だけではライバルと差別化できない

が、今はそうではありません。

そのように変化した背景には企業が丁寧に教育・訓練する余裕がなくなったことと、大卒の人間が増え、ライバルが多くなったことがあります。「資格を取ろう」「スキルをつけよう」というように、大卒という資格に、さらに付加価値をつけようとする学生が増えてきています。学生のうちから企業のインターンに参加し、就業経験を積む学生も多くなっています。このように学歴に関するアンコンシャス・バイアスは、少子高齢化で大学全入になっている現実を反映してどんどん変わってきました。そして今後も変わっていく、ととらえたほうが良いと考えています。

最近では一般入試より前に行われる推薦入試などで入学する学生も増えています。今後、偏差値は意味をなさなくなるでしょう。日本の有名校へ進学することが必ずしも正解ではない、そんな時代が来るのかもしれません。

大切なのは情報をきちんと集め、「今後の社会で何が求められているか」「自分はどんなことが得意なのか」を考え、勉強していくことではないでしょうか。アンコンシャス・バイアスから脱却することは、生き方の多様性を広げることになります。学歴信仰にまどわされることなく、自分らしい生き方をつかんでほしいと思います。（中略）

急速に高学歴化するアジアの国々

この現象は中国でも見られるようです。大学院の修士号や博士号を持っていると組織内の出世でプラスになるからと、日本に駐在で働く中国の方が3～5年の駐在期間のうちに大学院で学ぶといった話もよく耳にします。アジアの国々は急速に高学歴化しています。

彼らには「大学院を出ておくことが出世につながるから勉強しよう」という意欲があるのです。それに比べて、日本では大学院を出ていたとしても一般企業ではほとんど評価されません。これでは、他国より教育水準が下がってしまうのも仕方がないとしかいえません。といっても、教育水準の低下は、日本の大学にも責任の一端があります。大学院は、もっと社会人にも入りやすく、勉強しやすいものにするべきなのです。

「社会人は職場で学べ」を変えていくべき

もともと日本の大学院は研究者養成が中心でしたから、普通の職業人たちに勉強してもらおうという意識がなかったのです。そうした社会人を教えられる大学の先生が少ないという問題もあります。この背景には、「社会人は、学校ではなく職場で実際に仕事をしながら学んでください」という考えがあってのことなのでしょう。

しかし、時代は変わってきています。日本の大学、大学院も世界の潮流に合わせて変わっていくべきだと思います。昭和女子大学でも社会人向けの専門職大学院が23年からスタートします。

「仕事の能力は学歴ではない」という知恵

一方で、日本における大卒に対する評価も変わりつつあります。一昔前までは「大学を出ていること＝幹部候補生」でしたが、現在は専門学校を出た人、あるいはそういったところから叩き上げで社会に出てオン・ザ・ジョブで仕事をする人、高等専門学校（高専）を出た人の評価が高くなっています。

さまざまな企業、特に中堅企業あたりでは、東大卒を採用して失敗した話はたくさんあるけれど、高専卒を採用して失敗した話はないといわれており、高専卒は高い評価を得ています。これらは、「仕事の能力は学歴ではない」という失敗を経てつかみとった知恵なのかもしれません。

今や人生100年時代といわれ、「学び直し」にスポットライトが当たる機会も増えてきました。「大学は高校を卒業した人だけが行くところ」ではなく、「学びたい」と思ったあらゆる世代の人が行く、そんな場所になりつつあります。大学側も、もっと門戸を広げ、いろいろな人に教育の機会を提供していくべきではないかと私は考えていま

プレジデントオンライン 23・01・12

ステップゼミナールでは、中学2・3年生の新学期は3月スタートです。それは入試が3月の初めなので中3生の1年が12ヶ月ないからです。

21年度に中学校の新指導要領がスタートし、入試がかなり難しくなりました。

今までのように知識だけでは対応できません。読解力、表現力を問われ、表やグラフを読み取らなければならない問題は各教科に見られます。記述問題や完全解答が多くなっています。

高校入試が終わったら勉強しないようでは格差社会で生きていけません。社会が必要としているのは学力以上に非認知能力がある若者です。

今は「普通」では通用しません。受け身の姿勢では評価されないのです。

新年度に向かって、いろんなことに興味を持ち、いろんなことを経験し、目標を持ち、失敗を恐れずにそれに向かって前向きになることです。

非認知能力とは

◎自制心　意思が強く、精神力が強い　◎やりぬく力　非常に遠い先にあるゴールに向けて、興味を失わず、努力し続けることが出来る能力ことです。

3月の予定

1	水	高校卒業式　●別保中期末（～2）
2	木	●公立高校入学試験　●青陵中期末（～3）
3	金	
4	土	
5	日	休塾
6	月	★高校スタートダッシュ開始（8回）
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	休塾
13	月	
14	火	
15	水	中学校卒業式
16	木	
17	金	☆公立合格発表☆　小学校卒業式
18	土	
19	日	休塾
20	月	
21	火	春分の日　休塾
22	水	
23	木	
24	金	春期講座準備休み
25	土	◆春期講座スタート
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

大きな声であいさつを！

過保護・過干渉は子供をダメに！

在籍する生徒の所属校
小学校　愛国・芦野・富原
中学校　青陵・美原・景雲・附属・富原・別保
高　校　湖陵・高専

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP　https://stepsemi.com/　Mail：stepsemi@gmail.com

技術者教育の『国立高専』東大18人、難関国立大に多数編入

国立高等専門学校（以下、高専）の卒業生の４割が、大学への編入などによって進学していることをご存じだろうか。高専は15歳から５年間一貫の技術者教育を行って、高度な専門性を持つ学生を輩出することを重要なミッションにしている。1962年から各地で設置が始まり、2022年度は高専制度創設60周年の節目の年。現在は全国に51校がある。

30年ほど前は、卒業生の７割から８割はそのまま就職していた。それが、ここ20年は就職が６割、進学が４割となっていて、東京大学をはじめとする難関国立大学に編入する学生も少なくない。理系人材が求められる中で、大学側も受け入れ体制を整えている。高専生の進学状況について見ていきたい。

東大18人、東工大26人など国立大学に多数編入

高専は全国に51校あり、１学年に9000人以上が学んでいる。中学校を卒業して高専に入学した学生は、５年間の一貫教育によって一般的な教養と共に産業界で活躍できる専門的な知識や技術を身に付ける。

高専卒業後の進路は就職が６割、進学が４割。就職希望者の就職率は、毎年98％台から99％台と高い数字を誇る。進学については、各高専でさらに２年間高度な教育を受けることができる専攻科に進む学生が約14％、大学に主に３年次から編入する学生が約24％だ。

ここで、2021年４月に、全国の高専51校から主な大学に編入した実数を見てみたい。300人以上を受け入れているのが、豊橋技術科学大学と長岡技術科学大学。高専の卒業生を編入で受け入れることを主な目的として設置された国立大学だ。高専からの編入が１学年の約８割を占めている。

高専から主な大学への編入学状況（2021年度）

大学名	人数	大学名	人数
豊橋技術科学大学	335	神戸大学	23
長岡技術科学大学	305	島根大学	23
東京農工大学	62	茨城大学	21
熊本大学	59	秋田大学	20
九州大学	57	横浜国立大学	20
九州工業大学	56	香川大学	20
千葉大学	53	徳島大学	19
筑波大学	50	鹿児島大学	19
金沢大学	43	東京大学	18
新潟大学	40	三重大学	17
大阪大学	39	山口大学	17
信州大学	38	佐賀大学	17
福井大学	35	琉球大学	17
北海道大学	34	立命館大学	14
千葉工業大学	34	弘前大学	12
室蘭工業大学	33	宇都宮大学	12
岐阜大学	33	富山大学	12
東北大学	32	山梨大学	12
岡山大学	32	東京海洋大学	11
群馬大学	31	名古屋工業大学	11
電気通信大学	29	和歌山大学	11
広島大学	29	日本大学	11
東京工業大学	26	北見工業大学	10
名古屋大学	24	愛知教育大学	10
京都工芸繊維大学	23	宮崎大学	10

(出所) 独立行政法人国立高等専門学校機構

それ以外の大学を見ると、国立大学が多いことが分かる。東京大学には18人、東京工業大学には26人が編入しているほか、旧帝大でも九州大学の57人をはじめ多くの編入生を受け入れている。

編入に当たっては高専での成績がベースになる。その上で、大学によって異なるが、推薦試験の場合は６月から７月ごろに面接が、学力試験を課す場合は８月から９月ごろに試験が行われる。

大学入試に臨むのであれば、受験勉強をする必要がある。それが、高専生の場合は、高専で５年間集中して学び、大学へは編入試験を経て３年次に進む。専門的な知識を深めた状態で３年次に編入してくる高専卒業生は、大学側にとっても「欲しい人材」になっているのだ。

国立大学が高専生の受け入れを増やしてきた一方で、私立大学でも学生確保を目指す動きがある。東京都市大学は23年度から、高専から３年次に編入する学生に対して、授業料の75％を減免する制度を始める。減免額は最大で221万4000円にも及ぶ。

私立大学の理系学部は、国立大学に比べると学費が高い。高専の卒業生に振り向いてもらえるように、今後同様の施策を打ち出す大学が他にも出てくるのではないだろうか。

高専の役割の変化と社会からの要請

なぜ高専からの進学が増えたのか。東京都八王子市にある国立高等専門学校機構本部に進学の現状について聞いた。教育総括参事で教授の下田貞幸氏によると、高専の役割が変化してきた面があると指摘する。

「高専の制度は60年前、即戦力の中堅技術者を養成する目的でスタートしました。『大学を卒業するまで待っていられない』『ある程度知識も技術もある即戦力が早く欲しい』という企業からの声や、社会からの要請が出発点でした。

今は社会の要請が変わってきました。即戦力や中堅技術者といった言葉は使っていません。高度な知識や技術を身に付けるとともに、社会の課題を解決する、社会を良くするために学ぶ場に位置づけられています。起業する学生も増えていますね」

かつては高専を卒業すると、就職する学生が７割から８割を占め、進学は２割に満たないくらいだった。それが、約30年前から20年前にかけて、各高専に専攻科ができたことで、進学する学生の割合が増えた。

併せて、高専生を編入で受け入れる大学が増えて、その人数も多くなってきた。大学側も高専の卒業生への期待が大きくなっているという。

「高専では15歳から専門教育が始まって、５年生の時点で大学卒業と同じ程度の力をつけることを目指して教育しています。実習や実験も多く経験していますし、卒業研究も５年生で取り組みます。

一通りのことをやった上で大学に編入すると、１年生から大学に入学している学生に比べて手も動き、知識もあるので、大学で研究のリーダー的な存在になっている学生も結構います。そういう意味で、大学側からは『高専から学生が欲しい』という声をよく聞くようになりました。

東京大学に編入できるような学生は、高専の中でもトップクラスであることは確かですね。そもそも高専には、中学校卒の段階で優秀な学生が来てくれている場合が多いです。そういう学生が育って、より高度な勉強や研究がしたいという意識を持つことで、東京大学や東京工業大学などトップクラスの大学への編入を目指すケースが出てきています」

半数以上が大学に編入する高専も

高専全体では編入する学生の割合は約４割だが、それを超える高専もある。最も割合が高いのは、６割を超えている群馬県の群馬工業高専と新潟県の長岡工業高専だ。次いで、６割に近い兵庫県の明石工業高専が続く。千葉県の木更津工業高専と奈良県の奈良工業高専は５割を超え、九州では久留米工業高専が４割以上となっている。下田氏が次のように解説する。

「大都市圏の高専は大学に進む割合が高いですね。おそらく、大学の数が多いからではないでしょうか。長岡工業高専については、長岡技術科学大学が近くにあることも要因の一つだと思います」

さらに、高専の専攻科から、各大学の大学院に進む学生も多い。専攻科修了生の約４割が大学院に進学している。次の表は、21年４月の大学院への入学者数だ。

高専専攻科から主な大学院への進学状況（2021年度）

大学院名	人数
奈良先端科学技術大学院大学大学院	55
東北大学大学院	46
筑波大学大学院	36
九州大学大学院	36
東京工業大学大学院	28
北陸先端科学技術大学院大学大学院	28
長岡技術科学大学大学院	25
北海道大学大学院	24
九州工業大学大学院	19
大阪大学大学院	18
東京大学大学院	13
豊橋技術科学大学大学院	10
名古屋大学大学院	9
電気通信大学大学院	7
京都大学大学院	7
千葉大学大学院	5
神戸大学大学院	5
熊本大学大学院	5
東京都立大学大学院	5
横浜国立大学大学院	4
福井大学大学院	4
広島大学大学院	4
慶応義塾大学大学院	4
新潟大学大学院	3
金沢大学大学院	3

(出所) 独立行政法人国立高等専門学校機構

あまり知られていない進学率の高さ

以上のように、高専からの大学編入や、その先の大学院への進学を選ぶ学生の割合は高い。にもかかわらず、学生の親世代も含め、一般にはあまり知られていないのではないだろうか。

高専のパンフレットを見ると、「卒業後の多彩なキャリアパス」として、学生の約４割が進学していることが書かれている。ただ、その記述はあっさりしている。下田氏によると、中学生に説明する際に、進学率のことはそれほど打ち出していないという。

「そういう道もありますよ、というくらいの説明しかしていないと思います。どこまで伝わっているのかは分かりません。そもそも高専自体がマイナーな存在です。中学３年生が全国で約100万人いる中で、高専に進むのは１％弱です。高校の普通科に比べると、まだまだ認識されているとは言えないですね。

高専は各都道府県の第２、第３の都市に設置されているケースが多いので、寮に入って親元を離れる学生が多いです。それも一つの要因なのか、新型コロナウイルス禍では志願者数が減りました。各高専では、それまで寮では２人部屋や３人部屋が主流だったところを、コロナ対応のために個室に変えるといった対応を取った場合もあります」

高専では現在、デジタル分野の教育に力を入れている。サイバーセキュリティー分野では、サイバー攻撃を防ぐ側として活躍できるよう、高度なレベルの教育を行っている。また、22年からは半導体人材の育成にも動き出した。AI（人工知能）やデータサイエンスなども含めて、各分野について拠点校が指定されている。女子学生が９割以上を占める、ビジネス関連の学科を置いている高専もある。

「高専について理解してもらうために、教員が中学校に出向いて説明に回っています。他にも、小・中学校への出前授業や、科学技術フェアなどを開催して、高専の教育内容を知ってもらう機会をつくっています。教育内容と合わせて、高専の卒業生には多彩なキャリアパスがあることも、もっと知っていただきたいですね」

全国の高専生の４割を占める進学率は、今後も下がることはなさそうだ。15歳から専門的な知識と技術を身に付けた高専生への注目度は、今後企業だけでなく、大学からもより高まっていくのではないだろうか。

田中 圭太郎　ジャーナリスト、ライター

日経ビジネス　2023.1.30

道内公立の普通高校の求人倍率が２．５倍に対して釧路高専の求人倍率は３０倍を超えています。釧路市内の求人状況が益々悪くなっている中で高専生の就職先は幅広く全国の一流企業や中堅企業となっています。

また近年は塾の卒業生も大学に進学する学生が増えてきました。今年も電子科卒の村上君が国立豊橋技術科学大学に合格しました。格差社会を生き抜くために高校入試がゴールであってはなりません。高校３年間が人生に大きく影響するのです。